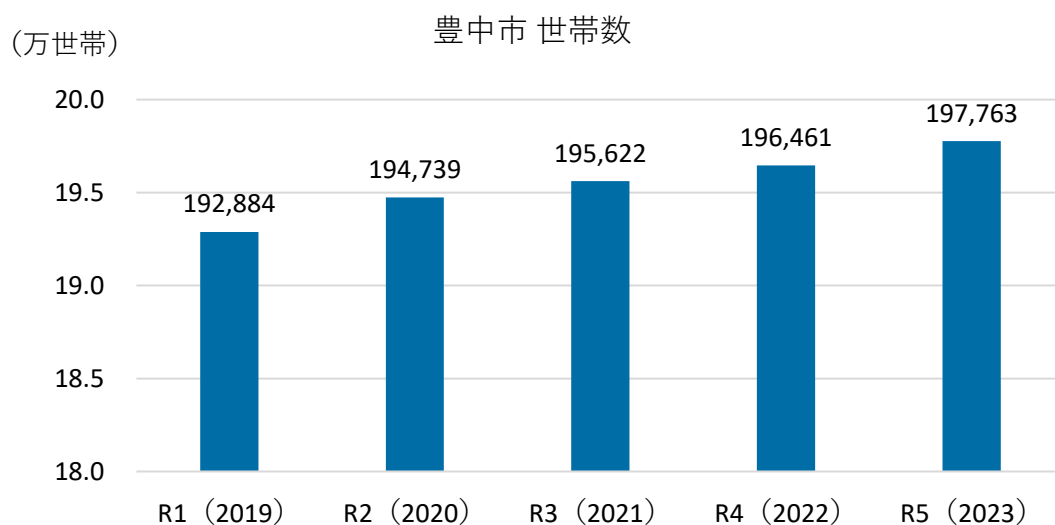


2 世帯

2.1 世帯

(1) 全市域

令和5年（2023年）における豊中市の世帯数は197,763世帯となった¹。人口が令和3年（2021年）から減少傾向にあるのに対し、世帯数は一貫して増加し続けている。令和5年の世帯数は、令和元年（2019年）から4,879世帯（2.5%）の増加となっている。

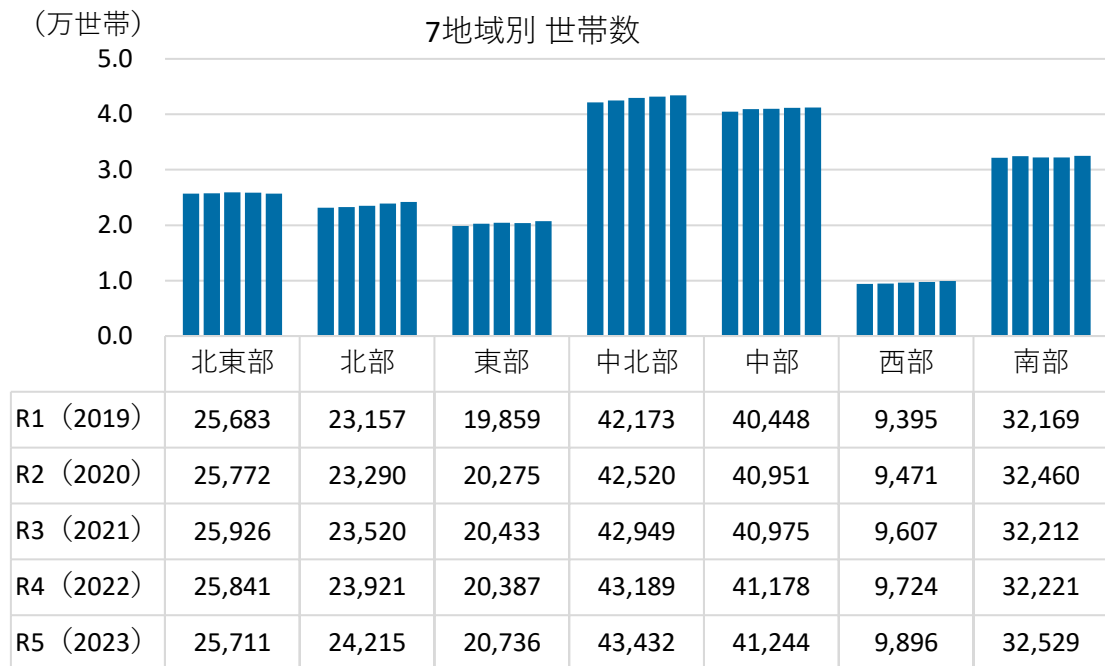


(2) 7 地域

令和5年（2023年）における世帯数は、中北部（43,432世帯）、中部（41,244世帯）、南部（32,529世帯）の順で多い。

令和元年（2019年）からの世帯の増加数は、多いほうから順に中北部（1,259世帯・3.0%）、北部（1,058世帯・4.6%）、東部（877世帯・4.4%）、中部（796世帯・2.0%）、西部（501世帯・5.3%）、南部（360世帯・1.1%）、北東部（28世帯・0.1%）である。

¹ 本レポートでは、世帯の集計にあたり居住実態はふまえていない。同じ住居に住んでいても別世帯として住民基本台帳に登録されている場合は、異なる世帯としてカウントされている。



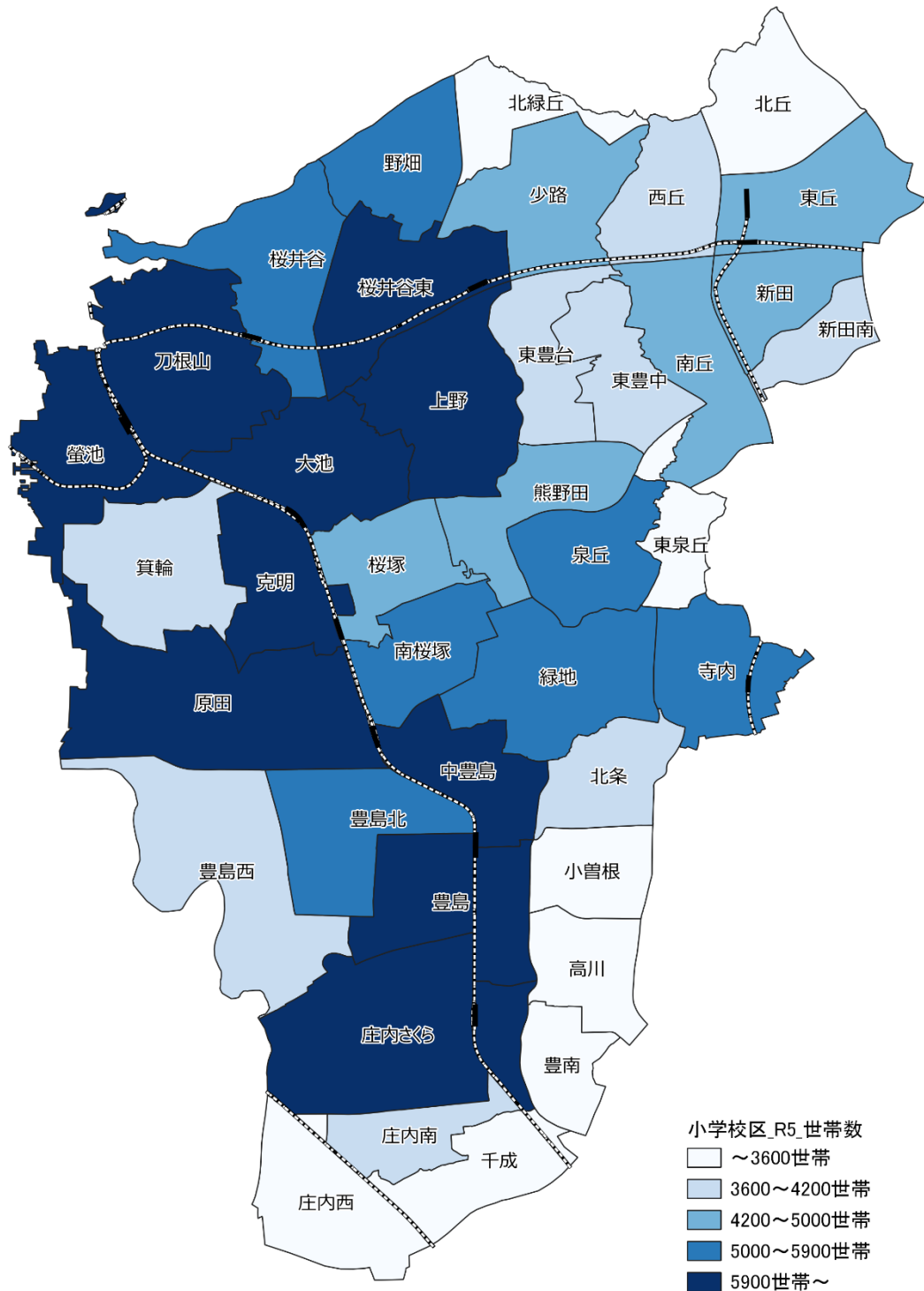
(3) 小学校区

令和5年(2023年)の世帯数を小学校区別に見ると、世帯数が多い校区は順に、庄内さくら(13,710世帯)、豊島(7,660世帯)、刀根山(7,358世帯)、上野(6,983世帯)、大池(6,887世帯)である。世帯数が少ない校区は、高川(3,352世帯)、千成(3,363世帯)、豊南(3,399世帯)、小曾根(3,421世帯)、東泉丘(3,435世帯)である。

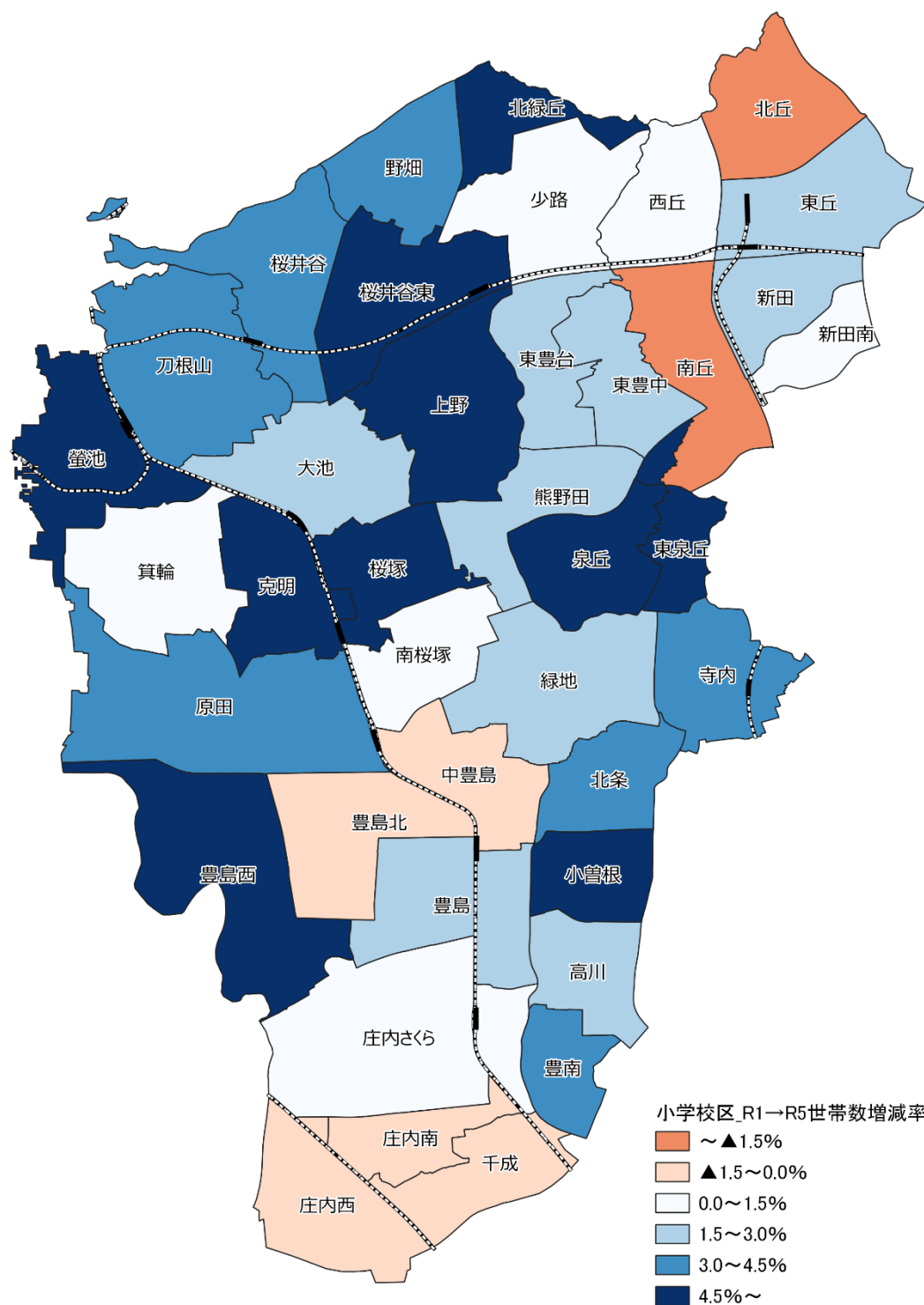
令和元年(2019年)からの世帯数の増加率が高い校区、減少率が高い校区はそれぞれ以下のとおりである。

世帯数の増加率が高い小学校区					世帯数の減少率が高い小学校区				
校区名	R1	R5	増加数	増加率	校区名	R1	R5	減少数	減少率
北緑丘	3,164	3,520	356	11.3	北丘	3,590	3,451	▲ 139	▲ 3.9
泉丘	4,736	5,077	341	7.2	南丘	4,962	4,833	▲ 129	▲ 2.6
克明	5,606	5,945	339	6.0	庄内西	3,496	3,463	▲ 33	▲ 0.9
豊島西	3,808	4,023	215	5.6	中豊島	6,327	6,289	▲ 38	▲ 0.6
螢池	5,785	6,064	279	4.8	千成	3,376	3,363	▲ 13	▲ 0.4

小学校区別 令和 5 年（2023 年）世帯数



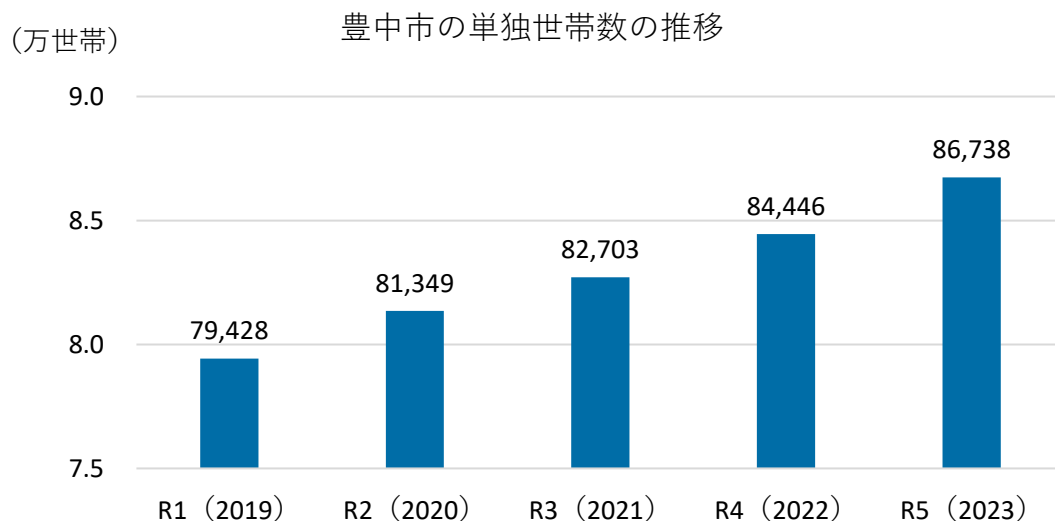
小学校区別 令和元～5年（2019～2023年）世帯数増減率



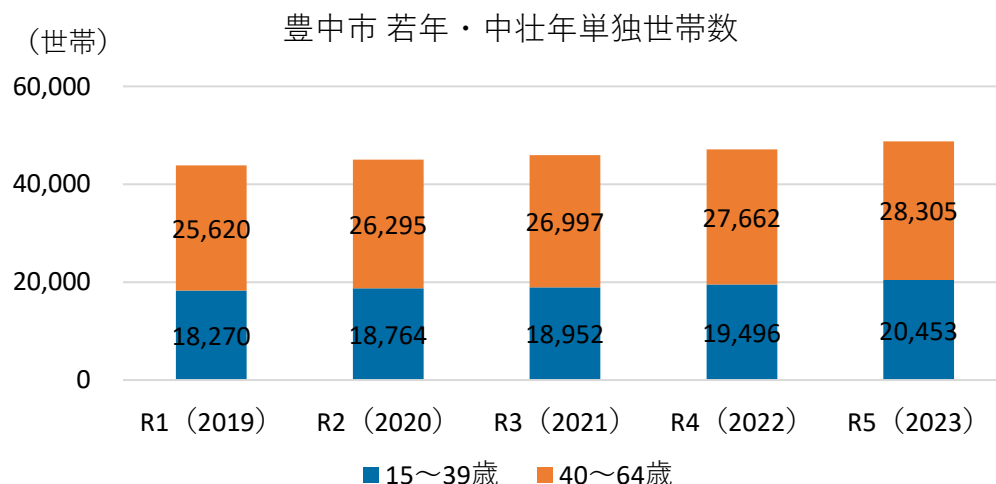
2.2 単独世帯

(1) 全市域

単独世帯（1 人のみで構成された世帯）は増加傾向にある²。令和 5 年（2023 年）の単独世帯の数は 86,738 世帯であり、令和元年（2019 年）からは 7,310 世帯（9.2%）の増加となっている。

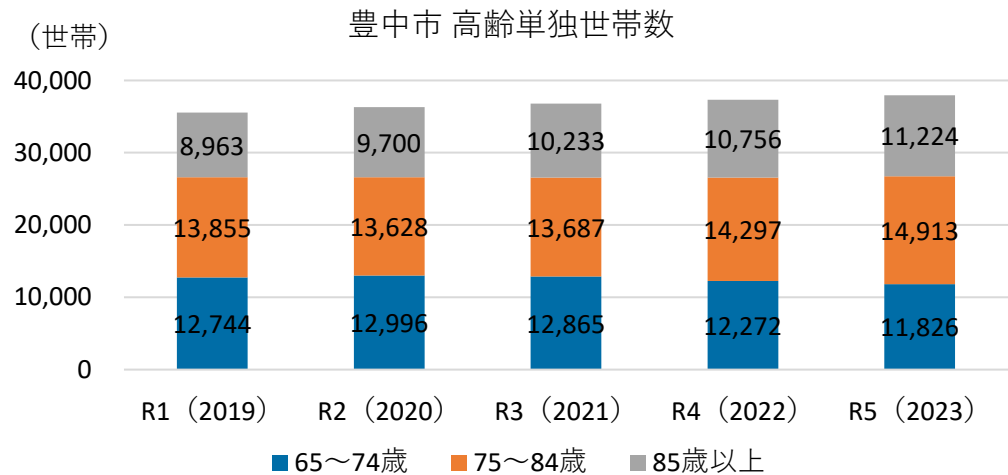


若年・中壮年層（15～64 歳）の単独世帯は、令和元年（2019 年）からの 5 年間で、43,890 世帯から 48,758 世帯へ、4,868 世帯（11.1%）の増加である。



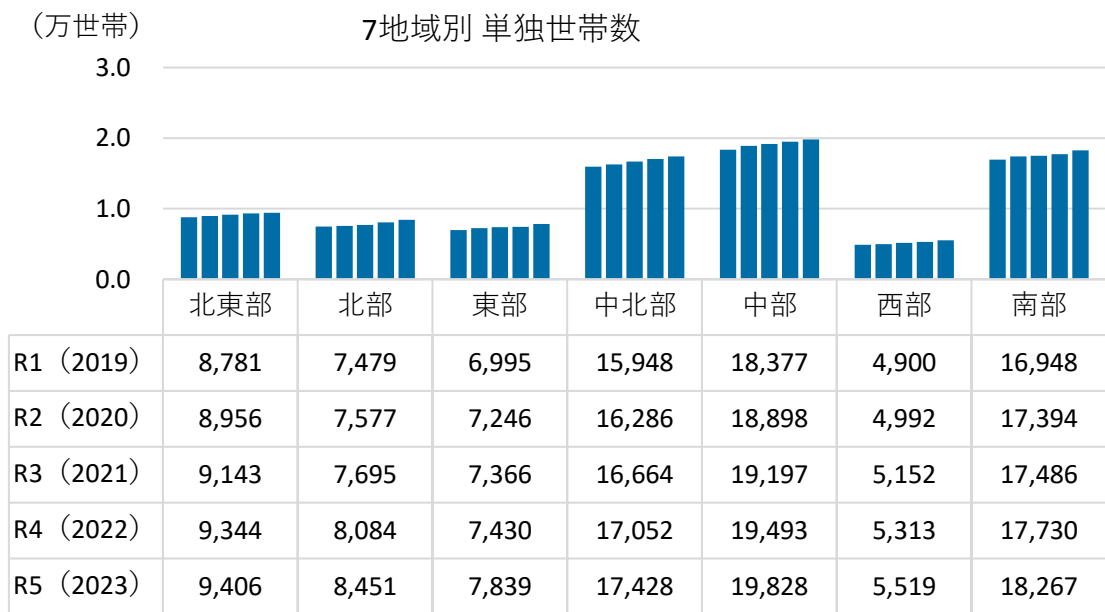
² 本レポートでは、1 つの世帯番号に 1 人のみが登録されている場合を単独世帯として集計しており、居住実態は反映していない。

高齢者（65 歳以上）の単独世帯は、令和元年（2019 年）からの 5 年間で、35,562 世帯から 37,963 世帯へ 2,401 世帯（6.8％）の増加である。なかでも 85 歳以上の単独世帯は 2,261 世帯（25.2％）の増加となっている。



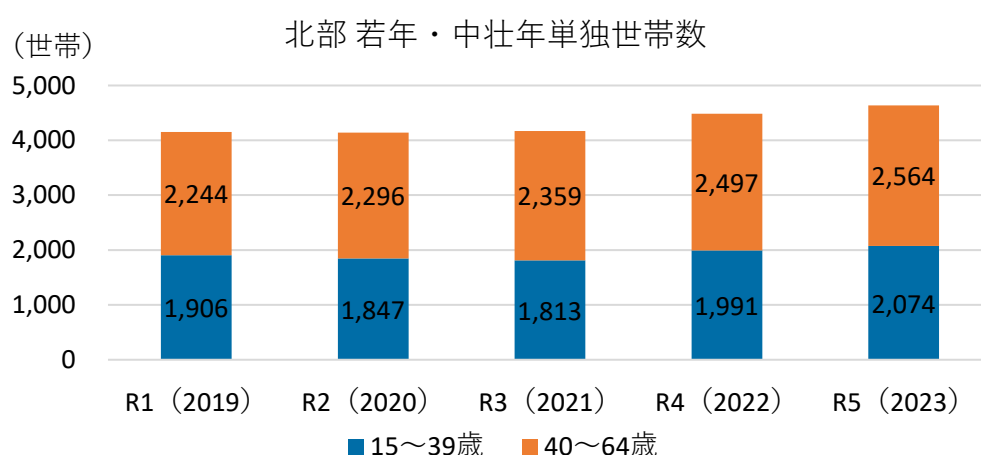
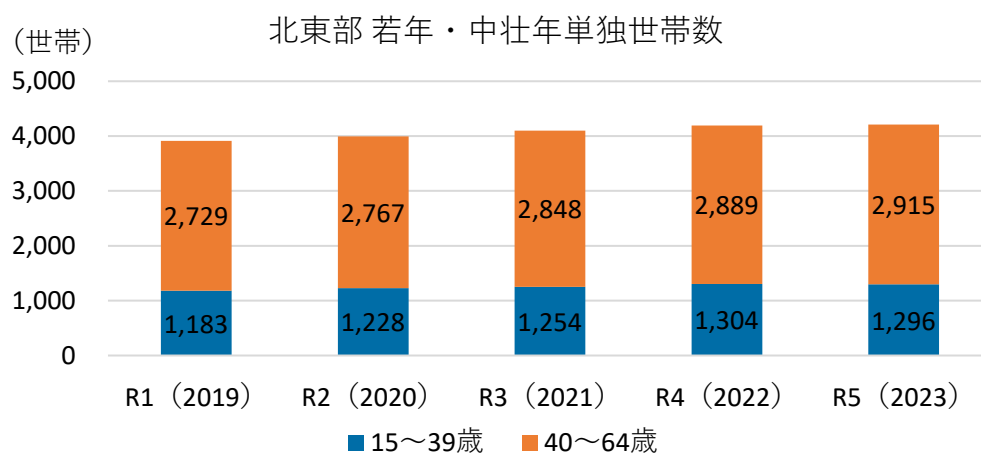
(2) 7 地域

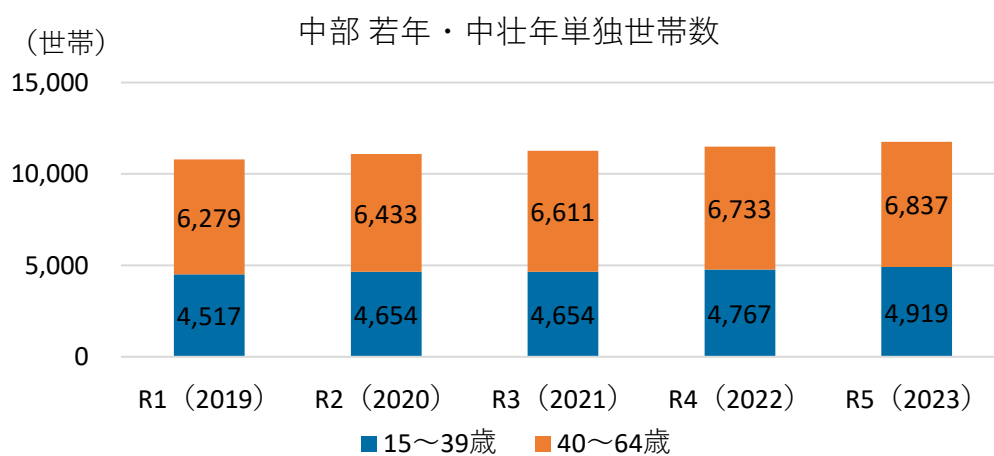
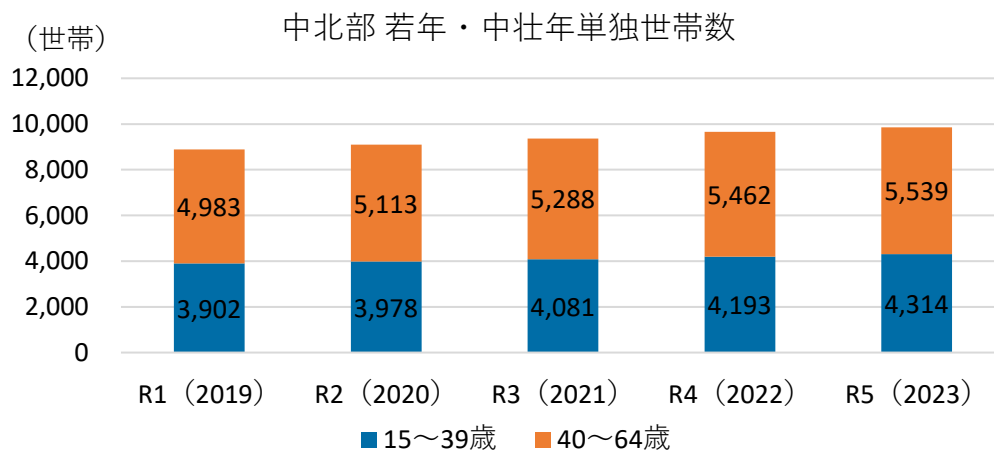
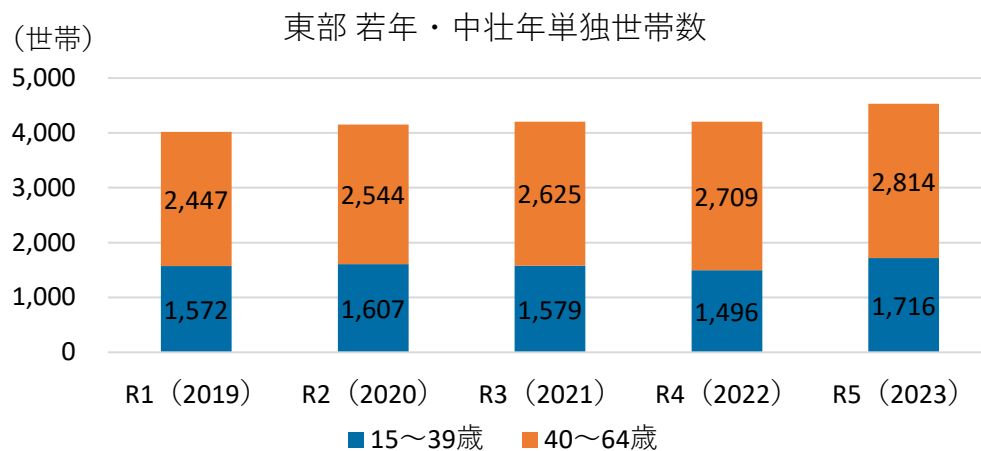
いずれの地域でも、単独世帯は増加傾向にある。令和元年（2019 年）から令和 5 年（2023 年）にかけての増加数が多いほうから順に、中北部（1,480 世帯・9.3％）、中部（1,451 世帯・7.9％）、南部（1,319 世帯・7.8％）、北部（972 世帯・13.0％）、東部（844 世帯・12.1％）、北東部（625 世帯・7.1％）、西部（619 世帯・12.6％）である。

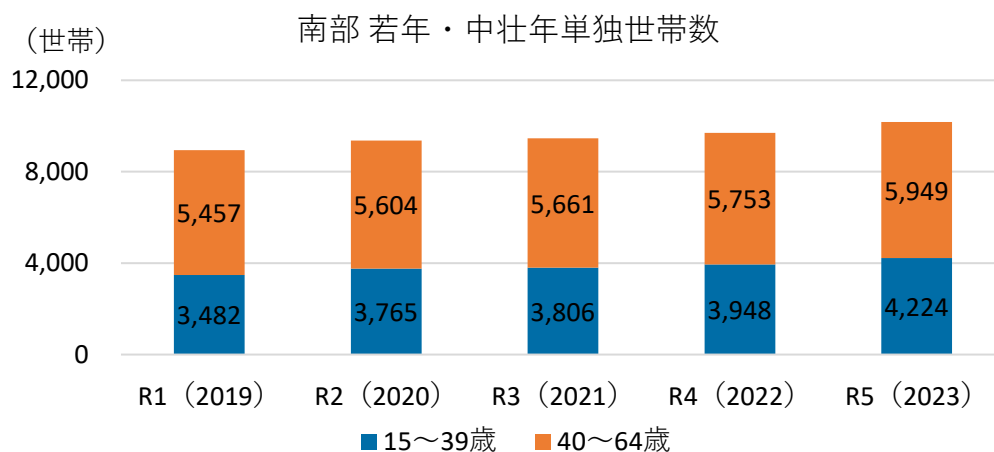
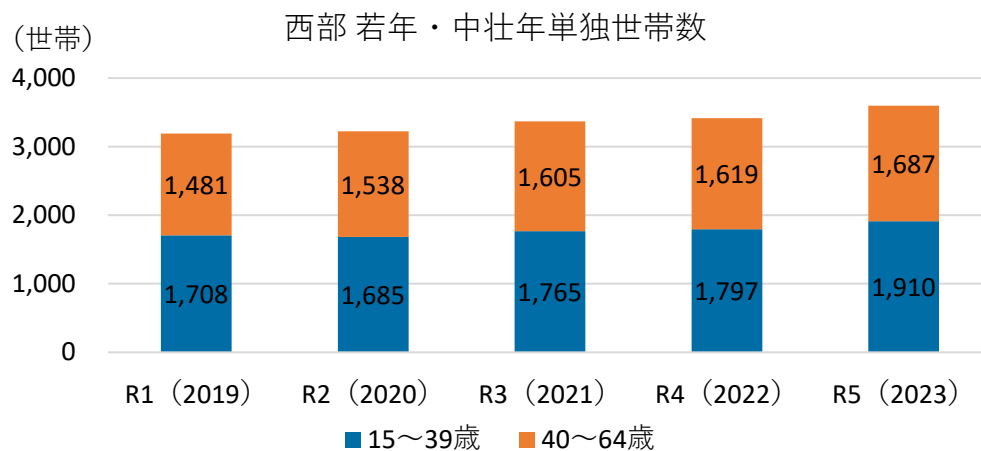


若年・中壮年層の単独世帯について7地域別に見ると、令和5年（2023年）の若年・中壮年単独世帯が多いほうから順に、中部（11,756世帯）、南部（10,173世帯）、中北部（9,853世帯）、北部（4,638世帯）、東部（4,530世帯）、北東部（4,211世帯）、西部（3,597世帯）である。

令和元年（2019年）から令和5年（2023年）にかけての増加数は、多いほうから順に、南部（1,234世帯・13.8%）、中北部（968世帯・10.9%）、中部（960世帯・8.9%）、東部（511世帯・12.7%）、北部（488世帯・11.8%）、西部（408世帯・12.8%）、北東部（299世帯・7.6%）である。

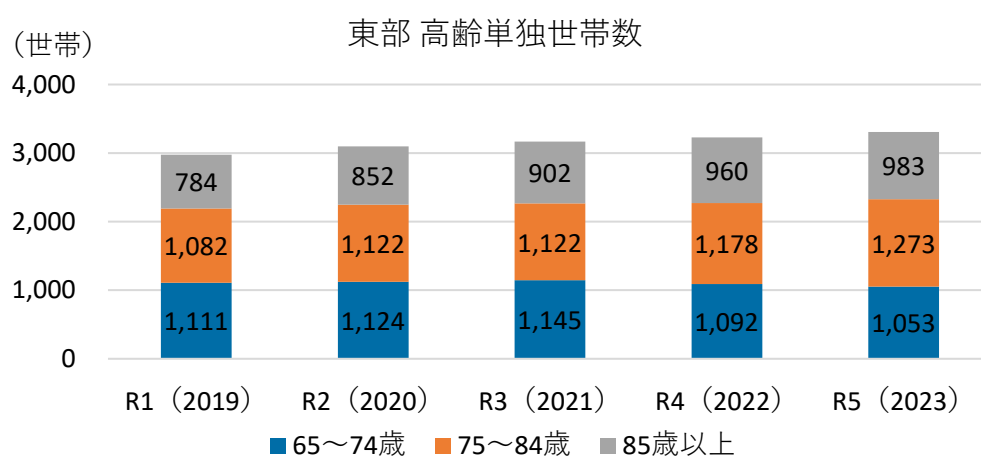
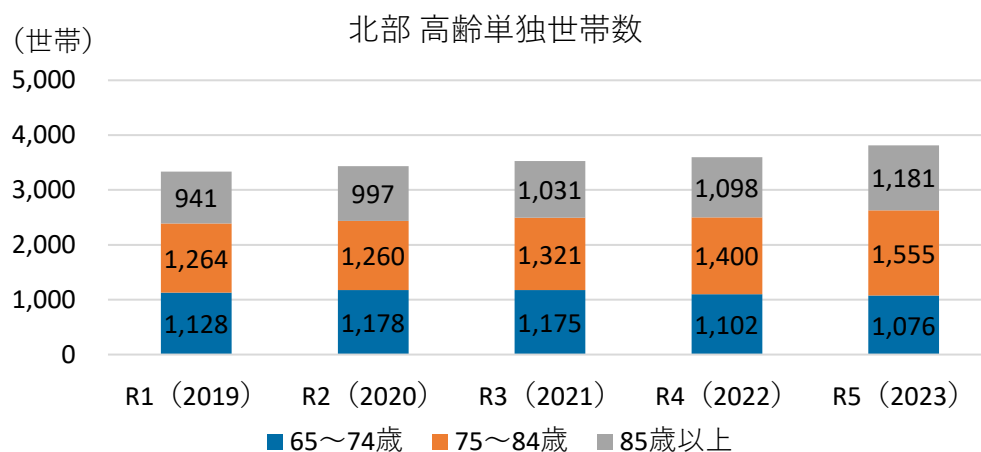
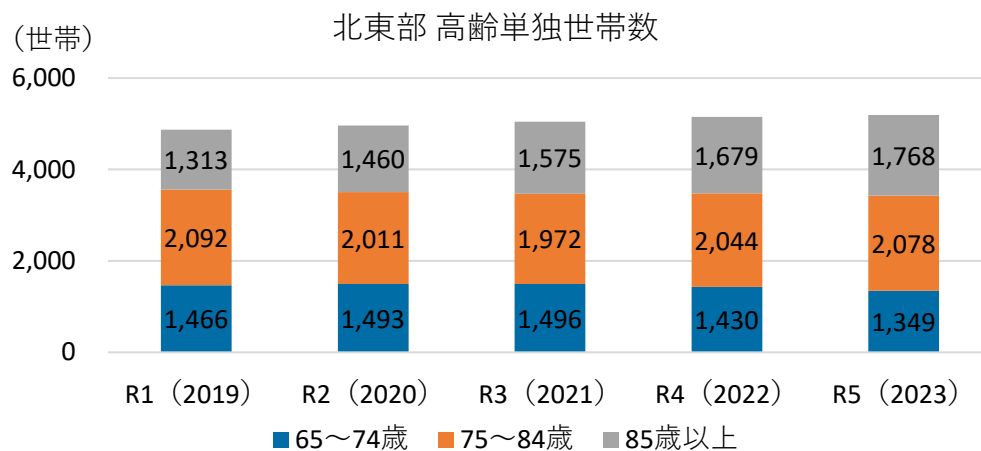


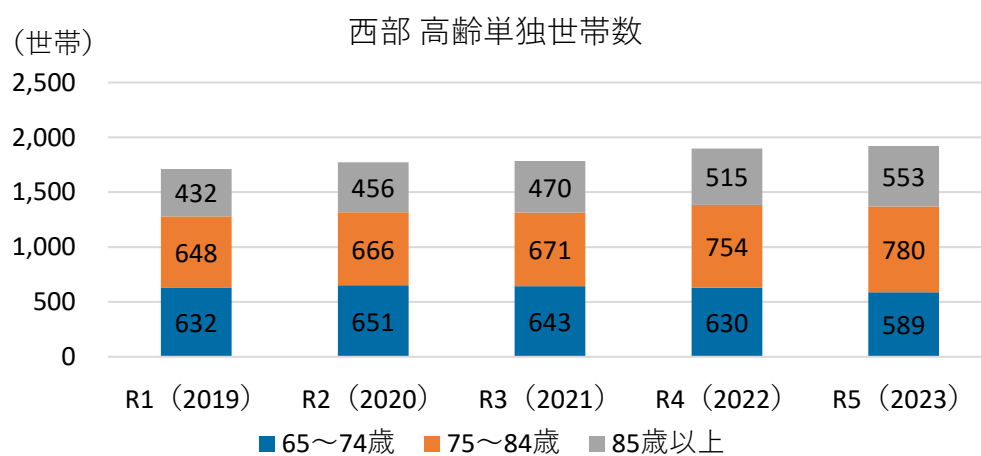
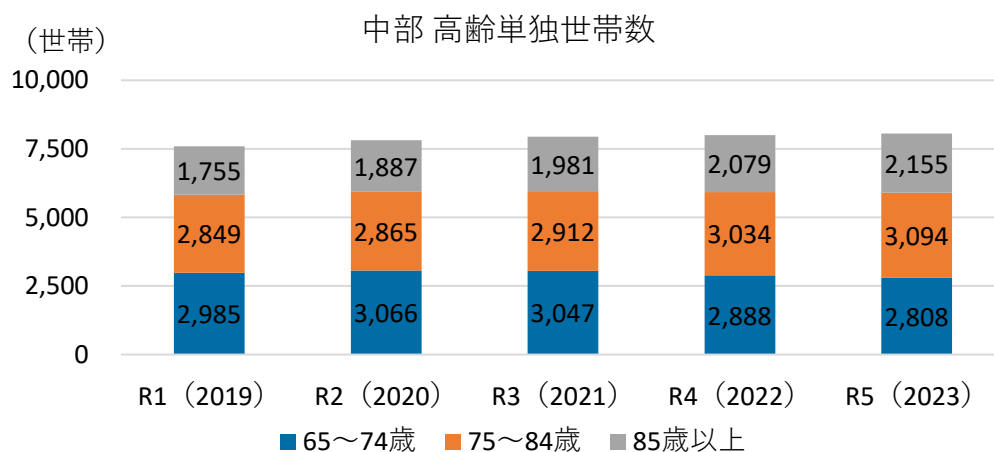
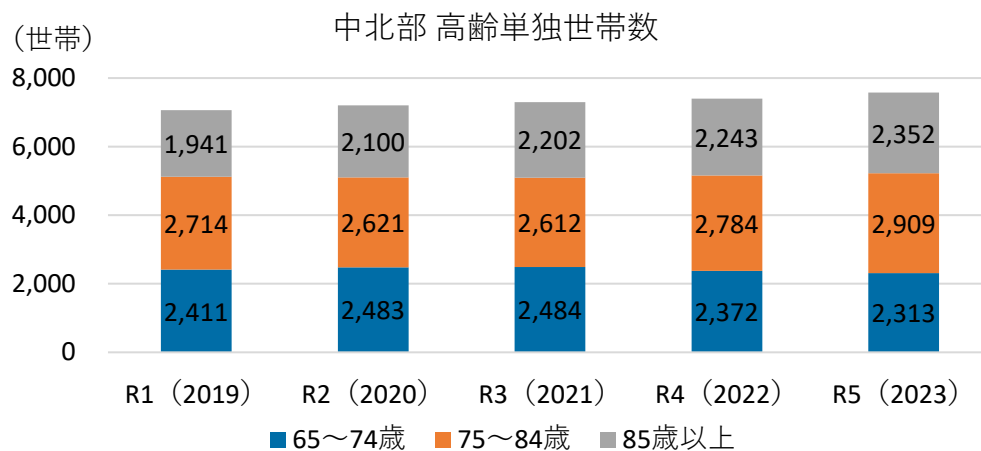


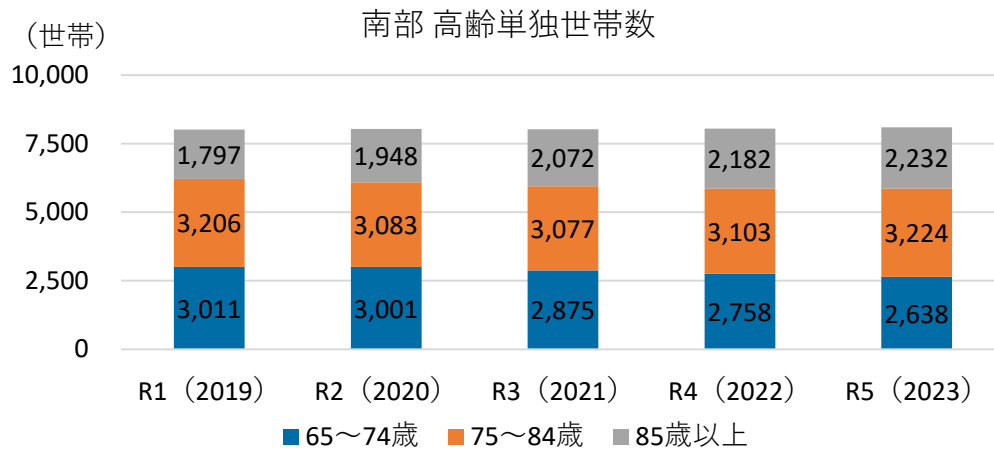


高齢単独世帯について7地域別に見ると、令和5年（2023年）の高齢単独世帯が多いほうから順に、南部（8,094世帯）、中部（8,057世帯）、中北部（7,574世帯）、北東部（5,195世帯）、北部（3,812世帯）、東部（3,309世帯）、西部（1,922世帯）である。

令和元年（2019年）から令和5年（2023年）にかけての増加数は、多いほうから順に、中北部（508世帯・7.2%）、北部（479世帯・14.4%）、中部（468世帯・6.2%）、東部（332世帯・11.2%）、北東部（324世帯・6.7%）、西部（210世帯・12.3%）、南部（80世帯・1.0%）である。







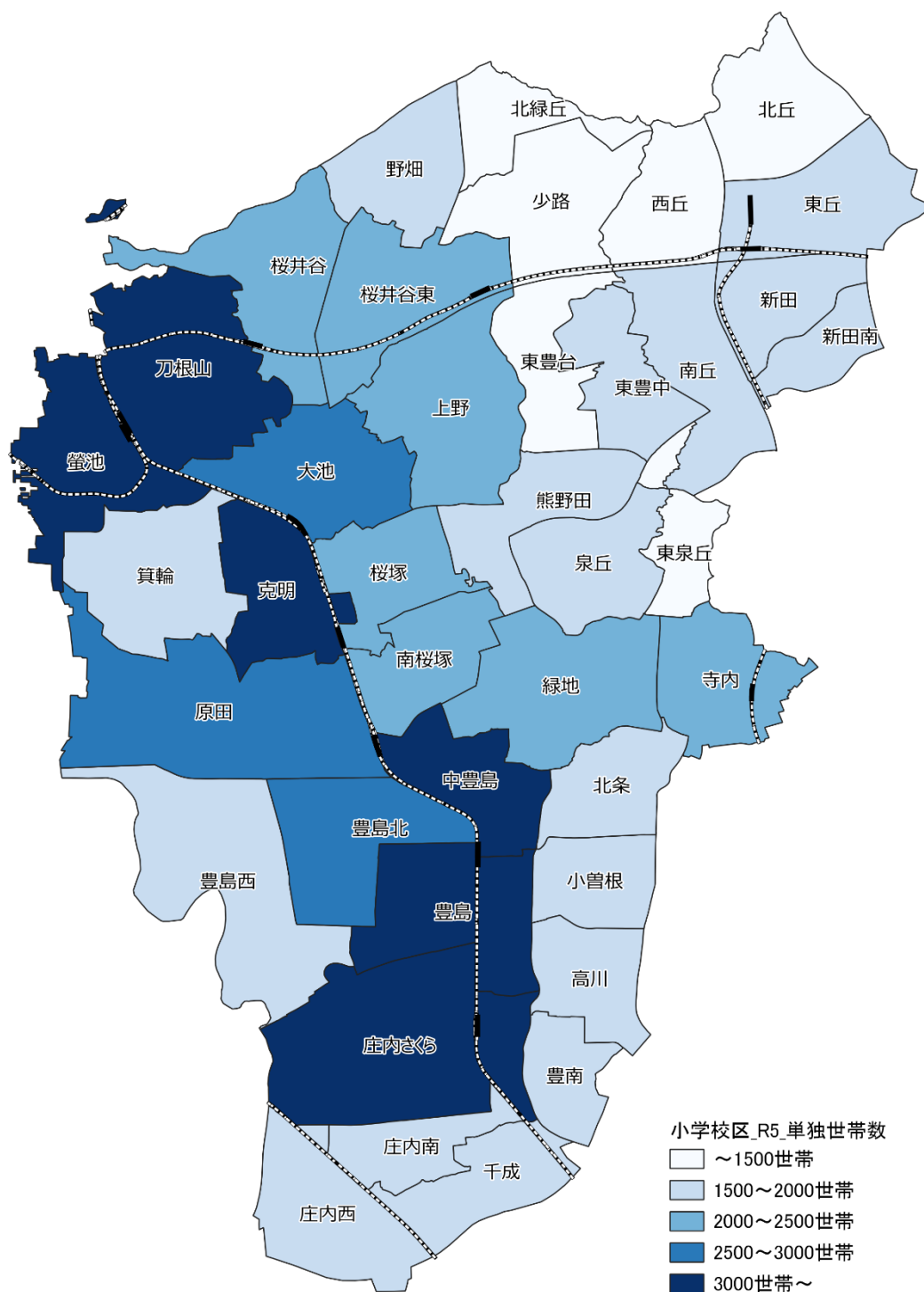
(3) 小学校区

令和 5 年（2023 年）の単独世帯数を小学校区別に見ると、単独世帯が多い校区は順に、庄内さくら（8,277 世帯）、豊島（4,593 世帯）、蜷池（3,544 世帯）、刀根山（3,334 世帯）、中豊島（3,067 世帯）である。

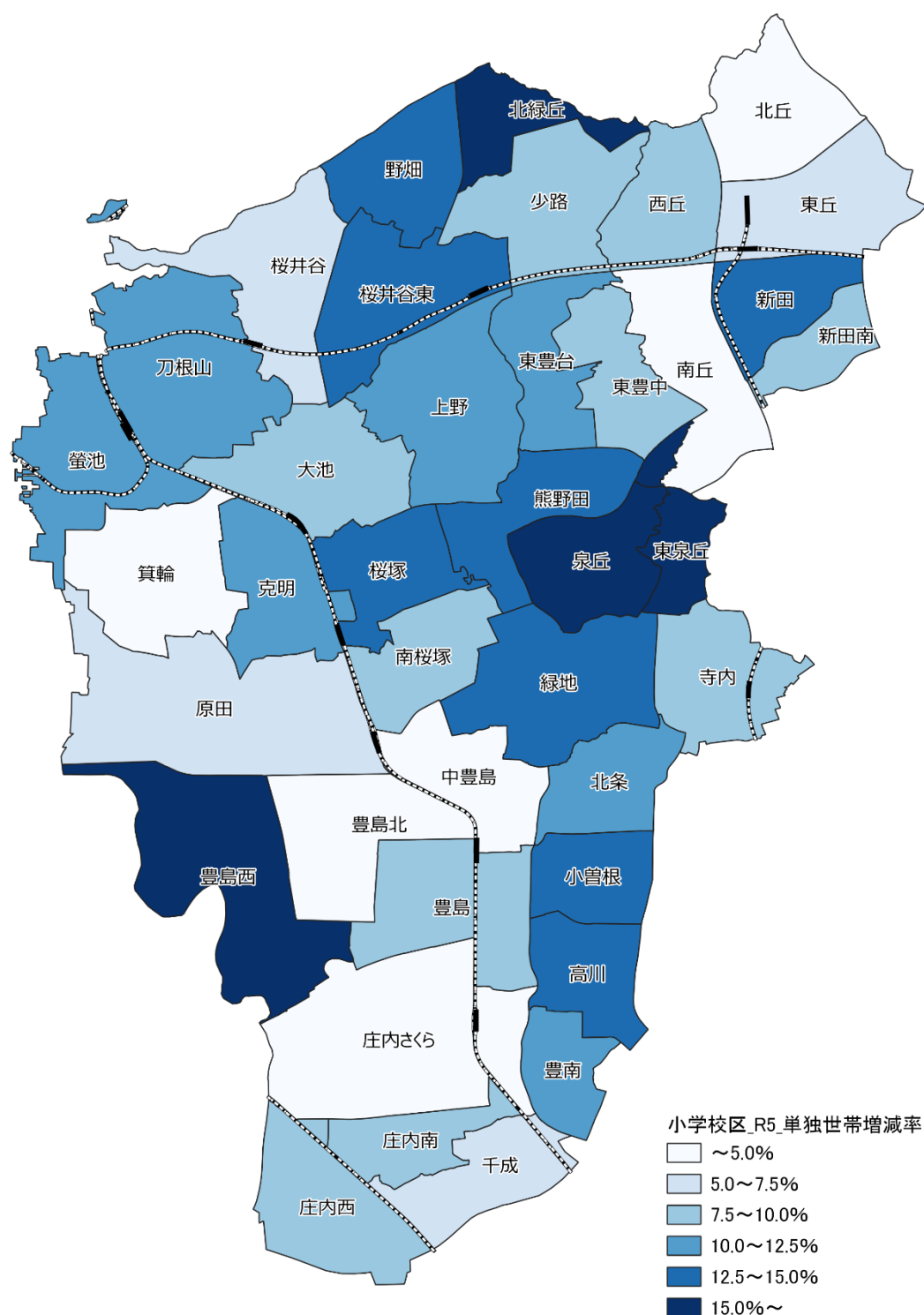
令和元年（2019 年）からの単独世帯数の変化を見ると、すべての校区で増加している。

単独世帯の増加率が高い小学校区					単独世帯の増加率が低い小学校区				
	R1	R5	増加数	増加率		R1	R5	増加数	増加率
北緑丘	1,079	1,328	249	23.1	北丘	1,391	1,399	8	0.6
東泉丘	762	903	141	18.5	箕輪	1,764	1,795	31	1.8
泉丘	1,377	1,611	234	17.0	中豊島	2,954	3,067	113	3.8
豊島西	1,662	1,913	251	15.1	豊島北	2,431	2,538	107	4.4
野畑	1,593	1,832	239	15.0	南丘	1,737	1,818	81	4.7

小学校區別 令和 5 年（2023 年）單獨世帯數



小学校区別 令和元～5 年（2019～2023 年）単独世帯増減率

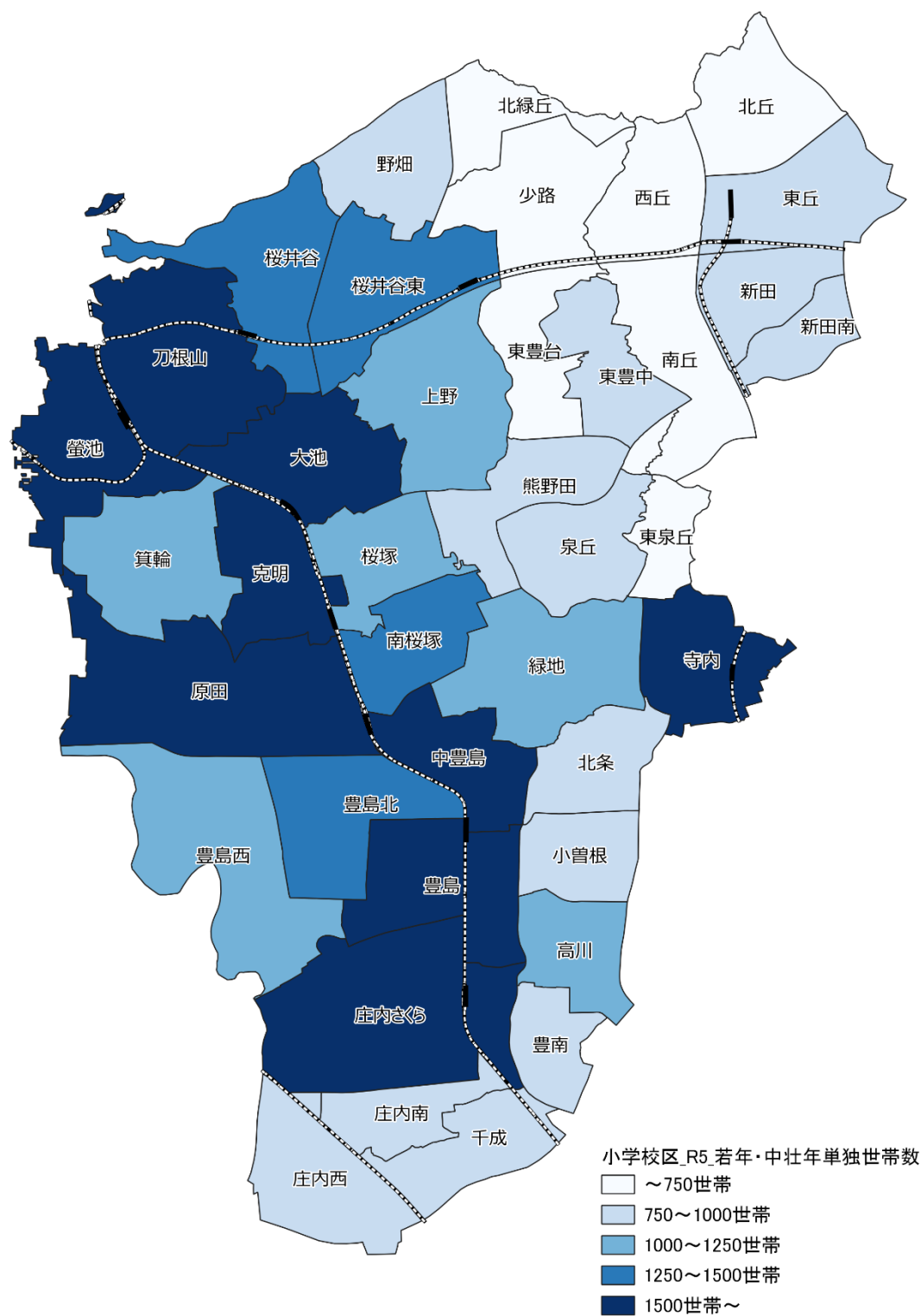


令和5年（2023年）の若年・中壮年の単独世帯数を小学校区別に見ると、多い校区は順に、庄内さくら（4,736世帯）、豊島（2,858世帯）、螢池（2,475世帯）、刀根山（2,123世帯）、克明（1,946世帯）である。15～64歳人口に占める単独世帯の割合が高い校区は順に、庄内さくら（34.9%）、螢池（34.5%）、豊島（33.6%）、克明（27.9%）、庄内西（27.6%）である。同割合が低い校区は順に、少路（7.4%）、東泉丘（7.9%）、西丘（9.2%）、上野（9.5%）、泉丘（10.1%）である。

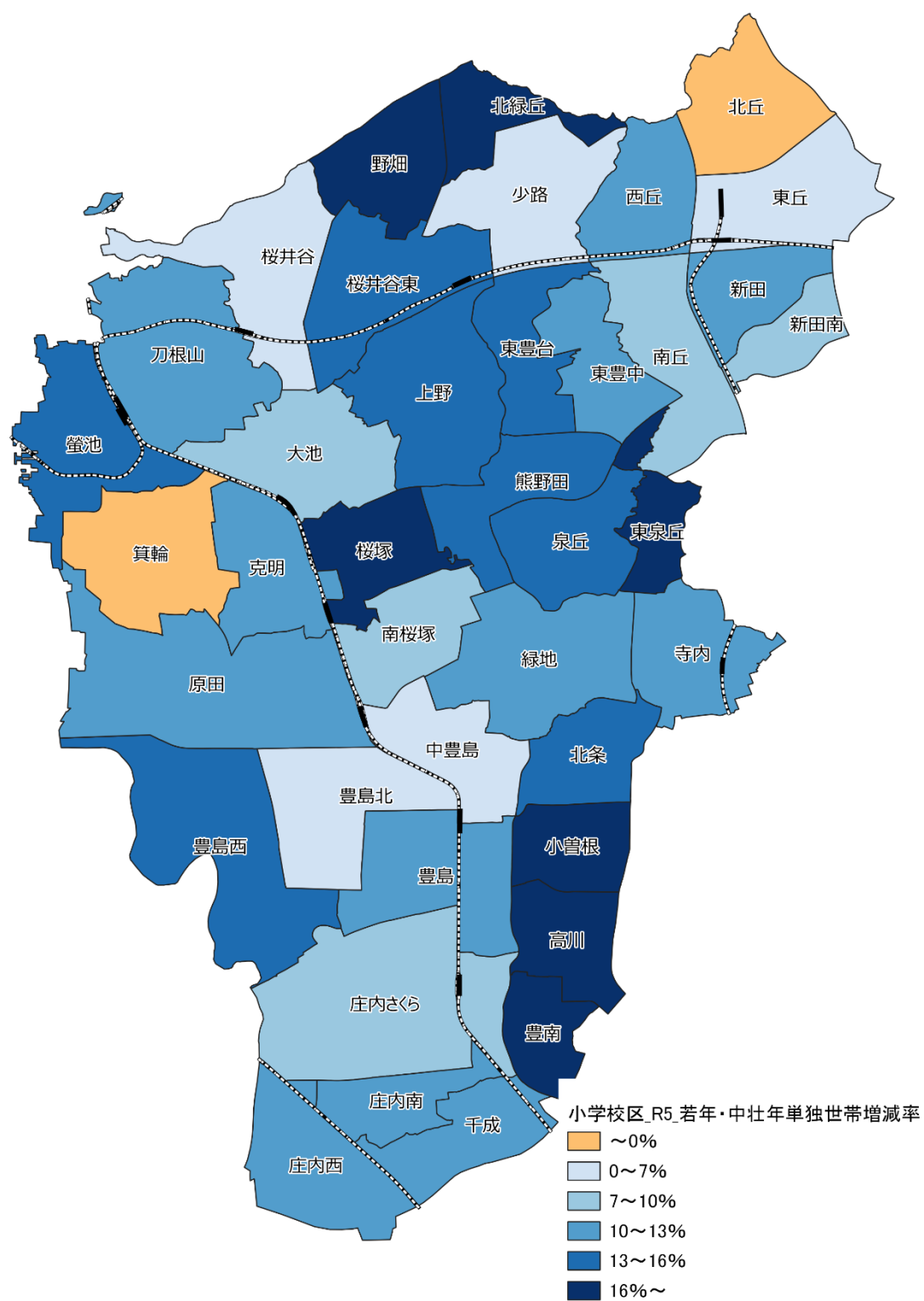
令和元年（2019年）からの変化を見ると、減少しているのは箕輪（▲51世帯・▲4.6%）、北丘（▲10世帯・▲2.0%）のみである。若年・中壮年の単独世帯の増加率が高い校区は、以下のとおりである。

若年・中壮年の単独世帯の増加率が高い小学校区				
	R1	R5	増加数	増加率
高川	900	1,104	204	22.7
豊南	757	914	157	20.7
小曾根	833	996	163	19.6
桜塚	983	1,175	192	19.5
東泉丘	396	473	77	19.4
野畑	766	900	134	17.5
北緑丘	464	545	81	17.5
泉丘	657	759	102	15.5
熊野田	801	919	118	14.7
上野	884	1,013	129	14.6

小学校区別 令和 5 年（2023 年）若年・中壮年単独世帯数



小学校区別 令和元～5年（2019～2023年）若年・中壮年単独世帯増減率

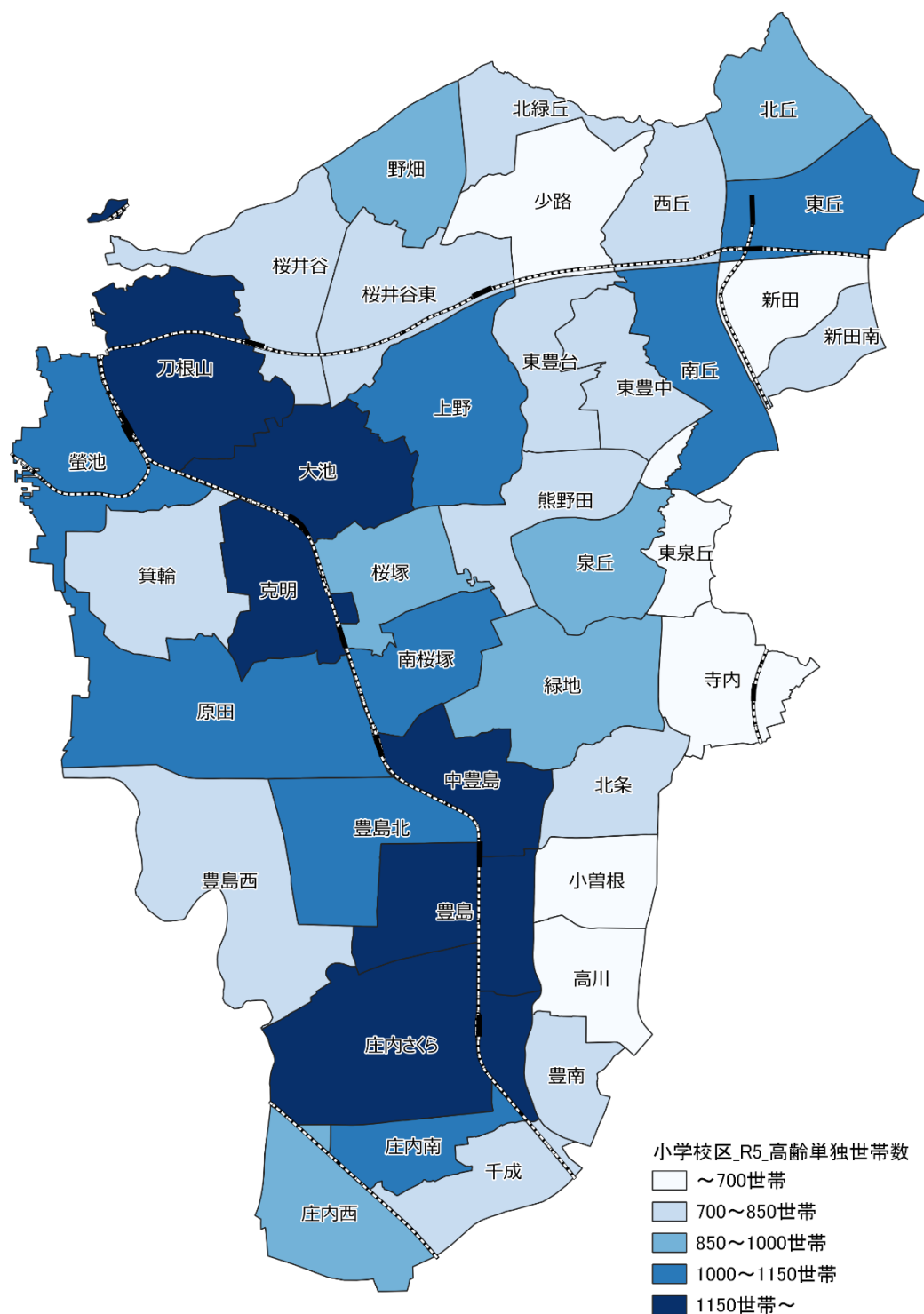


令和 5 年（2023 年）の高齢単独世帯数を小学校区別に見ると、高齢単独世帯が多い校区は順に、庄内さくら（3,541 世帯）、豊島（1,735 世帯）、大池（1,237 世帯）、刀根山（1,211 世帯）、中豊島（1,176 人）である。65 歳以上人口に占める単独世帯の割合が高い校区は順に、豊島（47.7%）、庄内さくら（47.2%）、庄内西（45.6%）、豊南（45.2%）、千成（42.7%）である。同割合が低い校区は、新田（24.4%）、少路（26.0%）、東泉丘（26.9%）、上野（28.4%）、桜井谷（29.7%）である。

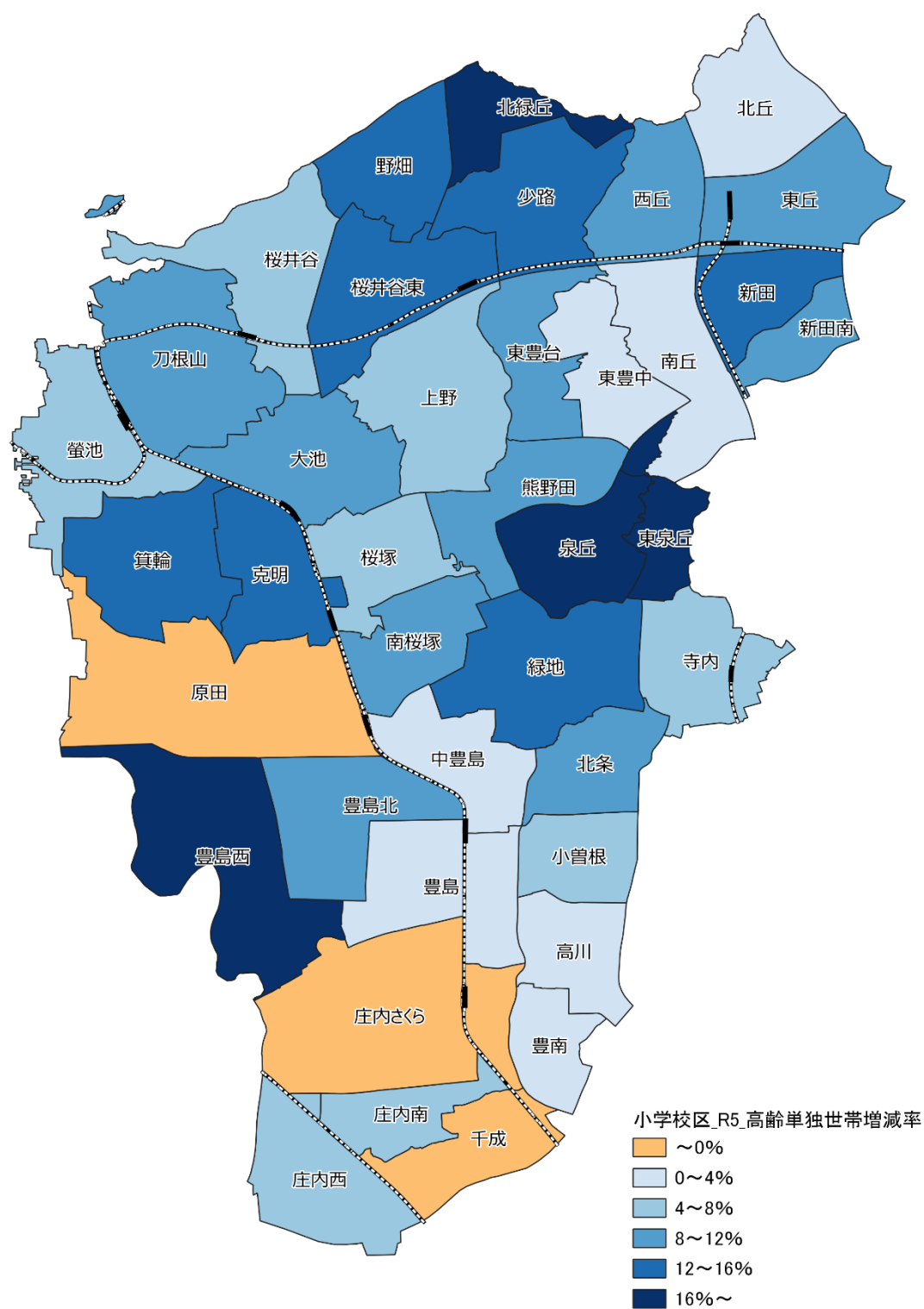
令和元年（2019 年）からの高齢単独世帯数の変化を見ると、減少しているのは庄内さくら（▲50 世帯・▲1.4%）、千成（▲9 世帯・▲1.1%）のみである。高齢単独世帯の増加率が高い校区は、以下のとおりである。

高齢単独世帯の増加率が高い小学校区				
	R1	R5	増加数	増加率
北緑丘	615	783	168	27.3
泉丘	720	852	132	18.3
豊島西	660	779	119	18.0
東泉丘	366	430	64	17.5
新田	457	530	73	16.0
緑地	778	878	100	12.9
桜井谷東	729	822	93	12.8
克明	1025	1154	129	12.6
野畑	827	931	104	12.6
箕輪	668	749	81	12.1

小学校区別 令和 5 年（2023 年）高齢単独世帯数



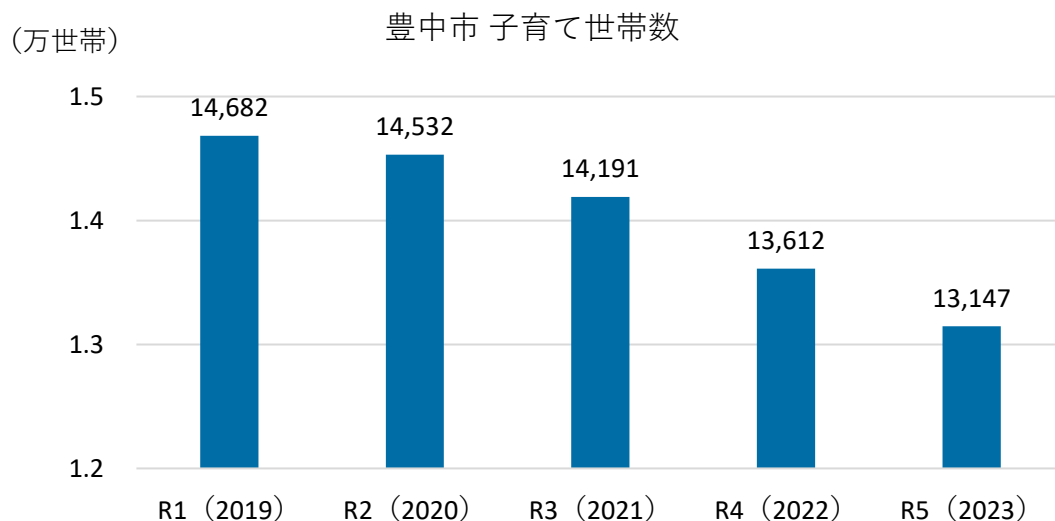
小学校区別 令和元～5年（2019～2023年）高齢単独世帯増減率



2.3 子育て世帯

(1) 全市域

子育て世帯（0～4歳と世帯主がいる世帯）³について、令和元年（2019年）以降の推移を見ると、一貫して減少傾向にある。令和5年（2023年）の子育て世帯数は13,147世帯であり、令和元年から1,535世帯（▲10.5%）の減少である。



(2) 7 地域

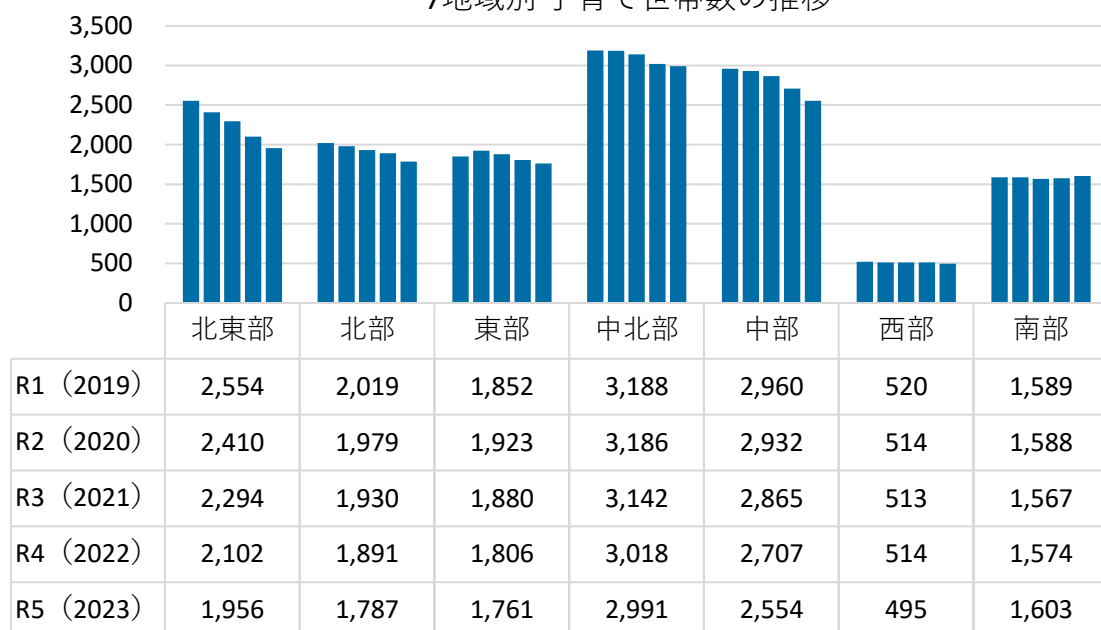
令和5年（2023年）における子育て世帯数は、中北部（2,991世帯）、中部（2,554世帯）、北東部（1,956世帯）の順が多い。

令和元年（2019年）からの変化を見ると、南部（14世帯・0.9%）を除くすべての地域で減少傾向にある。減少数が多いほうから順に、北東部（▲598世帯・▲23.4%）、中部（▲406世帯・▲13.7%）、北部（▲232世帯・▲11.5%）、中北部（▲197世帯・▲6.2%）、東部（▲91世帯・▲4.9%）、西部（▲25世帯・▲4.8%）である。

³ 本レポートでいう子育て世帯とは、同じ世帯番号に0～4歳と世帯主がいる世帯をさす。

(世帯)

7地域別 子育て世帯数の推移



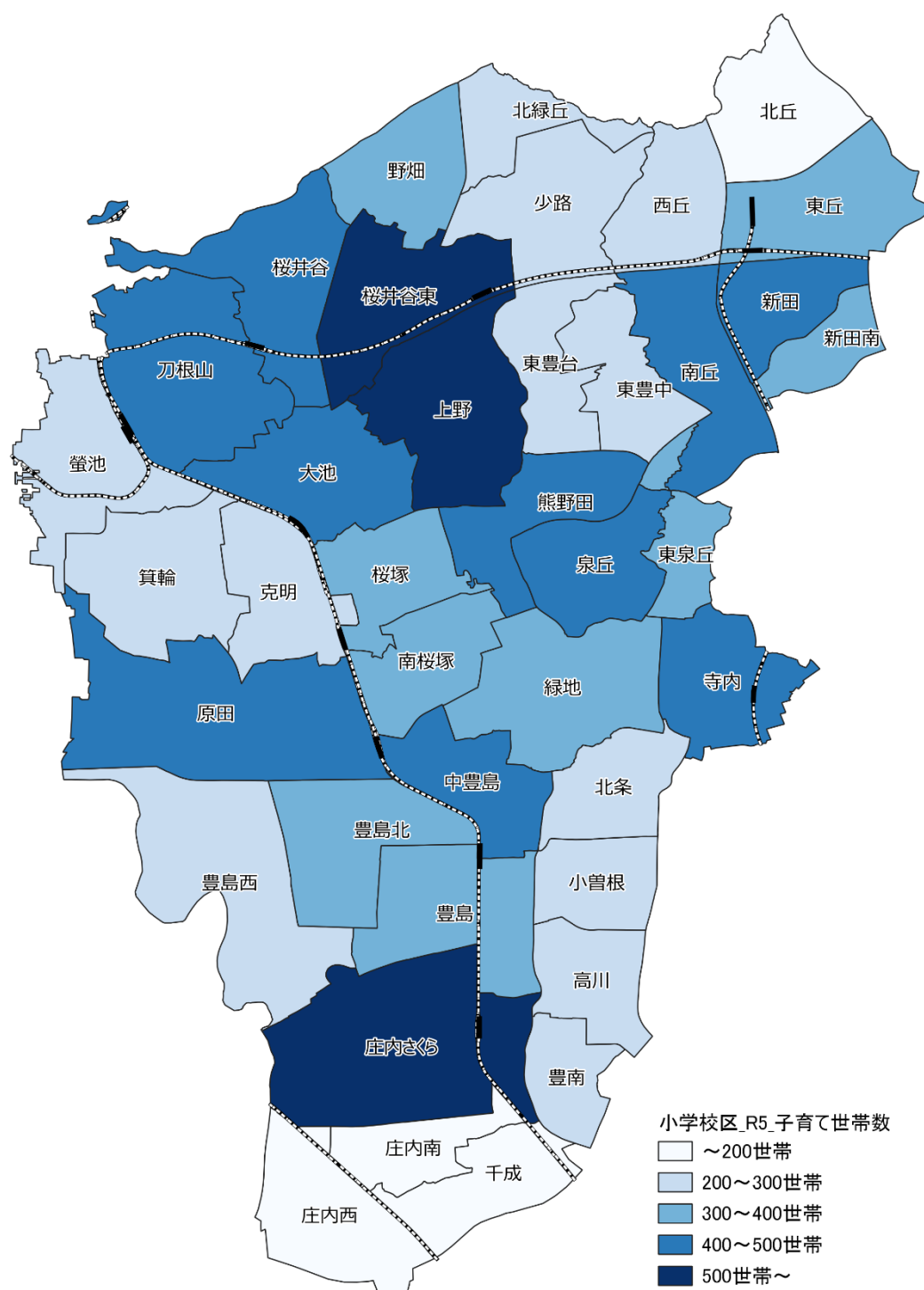
(3) 小学校区

令和5年(2023年)の子育て世帯数を小学校区別に見ると、子育て世帯が多い校区は順に、桜井谷東(596世帯)、庄内さくら(550世帯)、上野(541世帯)、寺内(493世帯)、大池(466世帯)である。

令和元年(2019年)からの子育て世帯の増加率が高い校区、低い校区はそれぞれ以下のとおりである。

子育て世帯の増加率が高い小学校区					子育て世帯の減少率が高い小学校区				
	R1	R5	増加数	増加率		R1	R5	減少数	減少率
豊南	212	266	54	25.5	西丘	352	227	▲ 125	▲ 35.5
千成	172	197	25	14.5	東豊台	312	205	▲ 107	▲ 34.3
小曽根	212	242	30	14.2	庄内西	195	136	▲ 59	▲ 30.3
桜井谷	356	406	50	14.0	北丘	285	200	▲ 85	▲ 29.8
北緑丘	221	249	28	12.7	新田	626	453	▲ 173	▲ 27.6

小学校区別 令和 5 年（2023 年）子育て世帯数



小学校区別 令和元～5年（2019～2023年）子育て世帯増減率

